

# 3.11から7年 被災地・南三陸町の今

2011年3月11日に発生した東日本大震災からまもなく7年が経とうとしています。市は復興を支援するために、宮城県南三陸町に2012年からこれまで10人の職員を派遣し、町民の生活再建に密接に関わるさまざまな業務に携わっています。南三陸町では、多くの方が津波で家を失いましたが、現在では、町内の高台に新たな宅地が整備され、多くの方が新しい家での生活を始めています。南三陸町で暮らす方々や役場の職員の話から復興が進む南三陸町の今を伝えます。

【防災対策課防災担当】  
写真提供：南三陸町

小野寺翔さん(左)、三浦貴裕さん  
高校卒業後、別々の道を歩み始めた二人だが、古里への思いは同じ。震災語り部などで南三陸を発信したいと意気込む。



阿部民子さん  
海産物のネット販売を行う阿部さん。国際認証ASCカキを広めることで、震災後の漁師のストーリーを伝えたいと意気込む。

## 着実に進む復興

南三陸町では、2016年に南三陸町地方卸売市場、2017年に防災集団移転促進団地<sup>※1</sup>と災害公営住宅<sup>※2</sup>の整備が完了するなど、目に見える形で復興が進んでいます。

※1 防災集団移転促進団地：災害が発生した地域または災害危険区域のうち、住民の居住に不適当でないと認められる区域内にある住居の集団的移転を促進するために、新たに町が高台に整備した宅地のこと  
※2 災害公営住宅：東日本大震災により住宅を滅失し、自力では住宅再建が難しい方のために町が建設する公的な賃貸住宅のこと



藤田岳さん  
埼玉から移住してきた藤田さん。人口減少や高齢化など町の課題解決のため、南三陸ワインの誕生に向け力を注ぐ。

佐々木昌則さん  
震災で経営していた民宿が流失し、その後再建を果たした佐々木さん。7年ぶりに再開した海水浴場は忘れられない。



南三陸町役場管財課の高見里奈さん  
震災前よりよい「まち」へ

7年前の震災時、私は中学2年生で、翌日の卒業式の準備を終えたときに大きな揺れに襲われ、校庭に避難しました。地域の指定避難場所だった校庭にはたくさんの人が集まっていた。私はより高い所へ避難しなければ危険だと感じ、中学校の裏の崖まで駆け上がり、そこから自分たちが学んでいる校舎が津波にのまれる光景を目にしました。津波にのまれた車からクラクションの音が響いていたのを覚えています。

震災から7年が経ち、通学・通勤の際、少しずつです復興が進むまちを見てきました。建物や道路が完成し、新しい南三陸町になっていくのはとてもうれしいことではありますが、震災前の南三陸町を忘れていくようで寂しくもあります。震災前の南三陸町に負けないよう、微力を尽くしたいと思います。

### 茅ヶ崎へのメッセージ

震災から今日に至るまで、みんなで互いに助け合ってきたからこそ乗り越えられた部分が多くありました。茅ヶ崎のみなさんも日頃からの人と人とのつながりを大切に、温かく、笑顔あふれる地域づくりに取り組んでもらえればと思います。



# 県広報コンクール 2部門で最優秀賞

全国広報コンクールに推薦決定

広報写真・組み写真部門

## 市制70周年特集号で初受賞

昨年の広報ちがさき1月1日号1面の市制施行70周年特集号が組み写真部門で、初の受賞。市民の方々から募集したこれまでの70年間の生き生きとした写真と、市民栄誉賞受賞者の写真を一緒に掲載。「人の歴史が生き生きと表現されている」と評価されました。



2017年県広報コンクール<sup>※</sup>で「広報写真 組み写真部門」「映像部門」の2部門で最優秀賞に輝きました。受賞した2作品は神奈川県代表として全国広報コンクールに推薦されます。

【秘書広報課広報担当】

※ 広報紙や広報番組など県内の自治体が作った広報作品を対象に、毎年優秀な作品(広報紙・広報写真(1枚写真・組み写真)・映像)を部門別に表彰しているもの

映像部門

## 伝統文化の継承を描き3年連続

市広報番組「ハーモニアちがさき」で特集した「キラリと光るちがさきの人～神輿提灯工房 茅ヶ崎 神輿康～中里康則さん」(昨年7月29日～8月4日放送)が受賞し、3年連続の受賞。中里さんは浜降祭が好きすぎて仕事にしまった方。父から息子へ伝統をつないでいく様子も描きました。市や地域のために努力をしている姿、また周囲の反応や次世代への影響などが評価されました。



# 茅ヶ崎の身近な自然

## ヘッドランド付近からの自然景観

写真・文/文化資料館自然資料整理グループ

山や海、川、森林や植物群落といった地域や場所で成り立つ自然環境の景観を自然景観といいます。また、立つ場所(視点)を固定し、近くから遠方までの範囲で見られる景観を眺望景観といいます。

◎ヘッドランド付近から沖合を見る

現在、茅ヶ崎の海岸部では、相模川からの砂の流入の激減や台風による砂浜の砂の流失対策として、養浜事業が行われています。ヘッドランドは、海岸の砂の移動や流出を抑える目的があります。

沖合を見ても、約1・4km先に姥島が見えます。姥島は30数個の岩礁の集まりで、その中の一つがえぼし岩です。

さらに沖合の南の方向には、天気の良いと伊豆大島が見え、やや東よりに江の島が見えます。

西の方向を見ると、箱根山の連山、世界遺産の富士山、富士山の右側には丹沢山塊など、よく知られた山が見えます。

富士山の下方を見ると、湘南平がある高麗山、浅間山が見え、テレビ塔の左を見ると、コップを伏せたような形の矢倉岳が見えます。

◎箱根山連山の見方

冬は、はつきりと見ることが多く、箱根山の山並みの稜線を見ると、左側から富士山を見るスポットとし

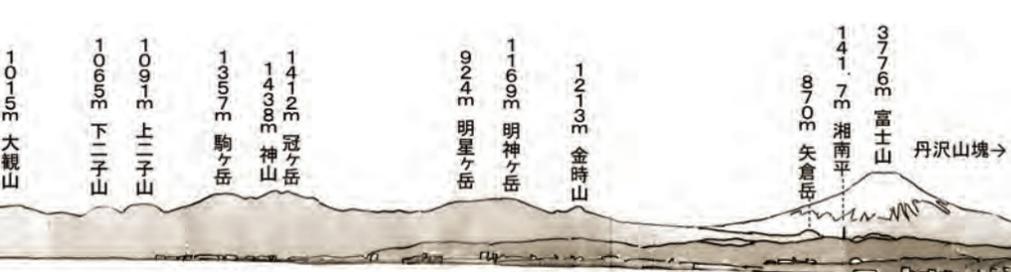


図 ヘッドランド付近から西の方向を見る

て有名な大観山、お椀を二つ伏せた格好で並ぶ二子山、山頂がなだらかに見える駒ヶ岳、箱根山で最高峰の神山、その右手には冠ヶ岳が見えます。少し離れて明星ヶ岳、明神ヶ岳が寄り添うように連なり、猪の背に似た金時山がひときわ自立します。

【文化資料館 ☎(85)1733】



さまざまな景観が見られるヘッドランド付近